

令和元年度 城南区人権を考えるつどい

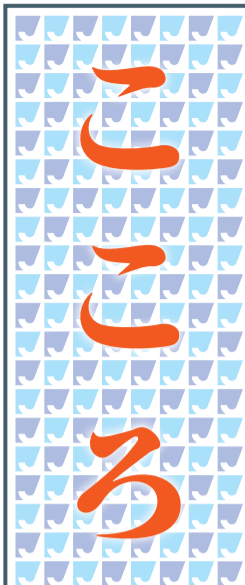
夢見る力を信じて

～ともに生きる未来へ～

城南区人権啓発連絡会議では、令和元年7月10日(水)、城南市民センターで、視覚障がいの音楽家 前川裕美さんを招き、ピアノ弾き語りコンサートを開催。約380人が素晴らしい歌声とピアノ、そして講演に聴き入りました。講演の内容をお伝えします。



笑顔で歌う前川さん



発行

城南区人権啓発連絡会議

事務局

城南区役所
生涯学習推進課
TEL 833-4044

病氣のこと、周囲の目
私は小学校五年生の時に「網膜色素変性症」と診断され、徐々に視力と視野を失いました。そして三十代前半にはわずかな光しか分からなくなっていました。今はほとんど全盲の状態です。この病氣は①視力低下②視野が狭まる③色を見分けられない④暗いところで特に見づらい⑤物を立体的に見ることができない、という症状が徐々に進行していきます。たとえば、視野が極端に狭いために、学校の運動場で、飛んでくるサッカーボールに気づけず、ボールが顔を直撃したり、駅の階段で、床の色の区別がつかないので段差が分からず、平たんな道のもりで歩いて転げ落ちたりと、よくくげがしていました。弱視と聞くとも「でも、見えてるんやろ?」と

病氣のこと、周囲の目

言われ、見えてるなら自分でしないといけない、言い訳にしているんじゃないか、頑張りが足りないんじゃないかとも言われ、とても悲しい思いをしました。私の育った時代に比べ、今は便利なサポートグッズも増え、弱視の人はほんの少しのサポートがあれば、たいいていのはできます。そしてそれがすごくうれしいのです。ほとんどのことはコミュニティケーションがあればなんとかなる、面倒くさがらないで「何かできることは?」と声をかけてほしいと思います。ひとりアメリカの音楽大学に留学し、外国で暮らしてきて、日本人には心の優しさ、清らかさ、人の悲しみに寄り添おうとする繊細な心があることを実感しました。それを少しだけ表に出してほしいのです。

自信 幸せそして未来へ

私の人生の大きな転機は、盲導犬との生活です。アメリカ留学中に出会った盲導犬「グレース」は、普通の人間の何十倍も信頼できるパートナーでした。盲導犬は訓練によって、交差点や階段の前で止まって知らせしてくれるなど、視覚障がい者の心強い味方です。「こんなに自分を大切に思ってくれる存在はない」と思えるくらい無償の愛をくれます。自分に自信が生まれ、諦めない心を持てたのは、今は亡きグレースのおかげです。もう一つは、六歳の息子の存在です。こんなにも幸せになれるのかと。この病氣のせいで、結婚・子どもを諦めないといけないのかと思っていました。周りからも無理だと言われていました。でも、諦めないでよかった、生きていれたい二十歳の頃の私に教えてあげたいです。音楽家になり、大好きな人と結婚し、最愛の子どもも授かり、未来を描けるようになります。皆さん、夢を持っている人がいたら、否定せずに認めて見守ってほしいと思います。



前川さんとグレース

参加者の声

- とても明るく話されましたが、辛かった時代の努力、盲導犬との出会い等、いろいろなことがあつての今なんだと、素敵なピアノ、歌声とともに感動しました。
- 自分の幸福は、障がいとは関係なく、自分が何を求めているのかを素直に考えることから生まれるのだとしみじみ思いました。
- 周りの理解が大切というお話、すべてに当てはまる言葉です。ね。当事者の話はとても心に沁みます。息子さんの登場とデュエット、素晴らしかったです。
- グローバルな視野と前向きな生き方に感心しました。周りの人は、その人のやりたいことを認めて見守ることが大切なんだとわかりました。
- ハイテクな生活サポート用品に感心!グッズに加えて我々も「そつとサポート」ですね。

令和元年度 城南区人権啓発連絡会議の活動

総会・委員研修会

城南区人権啓発連絡会議の総会を令和元年六月十四日(金)、城南区役所で開催しました。

総会終了後、「共生社会の実現を目指して」障がい者差別の解消に向けた条例制定のあゆみと内容」と題し、社会福祉法人葦の家 福祉会 代表 友廣道雄さんとNPO法人Wee1の代表 登本弘志さんを講師に招き、委員研修会を行いました。

平成三十一年一月、「福岡市障がい者差別解消条例」が施行されましたが、この条例の必要性や内容について当事者の立場から話を伺いました。同条例では障がいを理由とする差別的な取扱い① 不当な差別的取扱い ② 合理的配慮をしないこと、の二つに分け、福岡市と事業者は①の禁止、②についても市には配慮の法的義務、事業者には努力義務が求められます。また、市が障がい者差別専門相談窓口を設置することなどが定められています。誰もが安心して暮らせるまちづくりのため、一人ひとりが障がいへの理解を深めることの必要性を改めて学びました。



委員研修会の様子

街頭啓発

十一月二十六日(火)に、城南区役所・地下鉄別府駅・中村学園大学周辺で街頭啓発活動を行いました。人権啓発連絡会議の委員など三十名が、チラシを配りながら、人権尊重週間の周知や十二月の「人権を尊重する市民の集い」への参加を呼びかけました。

活動内容

総会
・役員選出
・平成30年度事業報告
・令和元年度事業計画
委員研修会

講演会「共生社会の実現を目指して」障がい者差別の解消に向けた条例制定のあゆみと内容」
講師 友廣道雄さん
(社会福祉法人葦の家福祉会 代表)
登本弘志さん
(NPO法人Wee1の代表)

7/10(水)

城南区人権を考えるつどい
「夢見る力を信じて
～ともに生きる未来へ～」
前川裕美さん(ピアノ弾き語りコンサート)

第1回運営委員会

人権尊重週間の周知取り組
みについて
城南区人権を考えるつどい
の結果について
人権を尊重する市民の集い
の開催予定について

10/29(火)

人権尊重週間街頭啓発
福岡市人権尊重週間行事
周知及び「市民の集い」PR
(チラシ等配布)

11/26(火)

人権を尊重する市民の集い
実践報告
西鉄の共生社会への
取り組みについて

12/5(木)

「ワタシは一体
ナニジンなんだらう」
講師 ピーター・フランクさん
(数学者・大道芸人)
人権推進課

2/3(月)

第2回運営委員会
令和2年度総会に付議する
事項について
広報紙「こころ」の
発行について

3/15(日)

広報紙発行
広報紙「こころ」第30号発行
(区内全戸配布)

第48回人権を尊重する市民の集い

令和元年十二月五日(木)、第四十八回福岡市人権尊重週間「人権を尊重する市民の集い」(主催 福岡市人権尊重行事推進委員会)が、城南市民センターホールで開かれました。ほぼ満席の四百九十五人が参加し、実践報告と講演に耳を傾けました。その概要をご紹介します。

講演会 「ワタシは一体 ナニジンなんだろう」

数学者・大道芸人 ピーター・フランクルさん

私は一九五三年、ユダヤ人の医師夫婦の子としてハンガリーで生まれました。福岡は、これまで一〇〇回以上来ている大好きなまちです。

一番大切なのは頭と心

幼少時代、自分はハンガリー人である意識していました。ところが小学校一年生が終わったある日、隣家の女の子と遊んでいると突然、『ユダヤ野郎』『くさい』と言われ、訳も分からず泣きながら家に帰りました。その時初めてユダヤという言葉を知りました。母に尋ねると、母も一緒に泣きました。帰宅した父が一家の歴史を話してくれました。母が高校一年の



表情豊かに話すピーターさん

知っていたのです。それは、フランクルという姓をもつ人は九九%、ユダヤ人だということ。「アンネの日記」で有名なアンネ・フランクという名前が皆さん、推測できることだと思います。

ハンガリーにいても差別から逃れられないと一九七九年にフランスに亡命、日本に住んで三十年になります。そのなかで、部落問題を知り、島崎藤村の

「破戒」を読み、部落出身の主人公の姿に自分を重ね合わせ、大変考えさせられました。

寛容の気持ち Keep your heart open

そのような境遇にありながら、私も若い頃、差別していたのです。二十六歳で、招かれてインドのムンバイに行きました。街には家も持たない人々があふれ、汚れたサリーをまとい、手で食物をいたたく姿に恐怖を覚え、とんでもないところに来た、と思ったのです。

しかし、ある時、自分が心を閉ざしているのでは、と気付き、「郷に入れば郷に従え」で、インド人と同じように生活を変えていきました。特にナベムという友人との出会いが私を大きく変えました。ナベムは私をお客さん扱いせず、家に招いても特別なことは何もありません。普段のまま、ありのまま家族同様に接してもらったことで、次第にインドに対する差別意識が解放されていきました。

Keep your heart open = いつも心を開いて、「寛容こそ大切、広い心で物事をありのままに受け入れましょう。もうすぐ東京オリンピック。いろんな国の人たちと普段着の交流を深めることが何より大事です。」

参加者の声

- 寛容さが大切ということを改めて知り、日々の生活に取り入れていきたいと思いました。
- 深い歴史のなかから差別の現実を掘り起こされ、人種問題も部落差別も根源は同じだと感じました。
- ピーターさんのお父さんが名前を変える機会がありながら、変えずに誇りをもちユダヤ人として生きたこと、感動しました。
- まさに生きた世界史。楽しいお話とパフォーマンスをありがとうございました。

令和元年度 福岡市人権尊重週間入選作品

城南区内小・中学生のみなさんの標語とポスターの入選作品を紹介します。



片江小6年 植村 龍虎さん



片江小6年 中村 美月さん



城南中2年 藤田 紗和さん



城南中2年 木田 知花さん



城南中3年 岡部 眞子さん



梅林中3年 阿部 まひろさん

まわりとはちがっているの何がダメ？
七隈小6年 永井ひよりさん

ハイタッチ心のドアが開きだす
堤小6年 堀田彩夏さん

やめようよいじめと差別いいわけも。
南片江小5年 遠山世照さん

いじめ0 まずは行動自分から
城南中3年 吉田佳乃子さん

実践報告

西鉄の共生社会への取り組みについて

西日本鉄道株式会社人権推進課 課長 吉田 真己さん



実践報告の様子

全員に毎年人権研修を行い、またお客様からの問いにどのよう回答するのか、具体的に示すことで人権感覚の向上に役立てています。例えば不動産事業において次のような質問があったら「お客様「家を買おうと思っっているが、そこは同和地区ですか？」担当者「そのようなお尋ねは人権侵害につながりますのでお答えできません」

その結果、売り上げが落ちても気にしなくてよい、「さあ、どうでしょうかねえ」などと曖昧に答えてはいけな、と明確にうたっています。

障がい者等への配慮としては、

ノンステップバスの導入や、電車部門ではホームでの転落防止柵の設置、積極的な声掛け運動に取り組むなど危険防止に努めています。

また、ヘルプカード(左図)例えば義足の使用や難病などで、援助や配慮を必要としていることが外見からはわかりにくい人々が身につけているカード)を、周知のためバスの中で掲示しています。ぜひ皆様にもご配慮をお願いします。

研修を重ねても根っこの意識が変わらなければ人権の尊重はありませぬ。全従業員の心のバリアフリーを目指して今後取り組みを続けます。



ヘルプカード